

茨城県における麻しん排除 に向けた対策について

茨城県保健福祉部保健予防課
2008.9.3

茨城県の概況

～着々と整備が進む広域交通ネットワークと
進化し続ける産業拠点～



- 人口: 2,970,259人
(平成20年4月1日現在)
- 世帯: 1,064,488世帯
- 老年人口割合: 19.4%
- 医師数: 4,609人
(155.1人/10万人) **46位**
- 診療所数: 1,696ヶ所
- 病院数: 201ヶ所

茨城県における対策の概要

- (1) 第1回麻しん対策会議の開催(20年2月1日)
→「麻しん排除に向けた対策」の取りまとめ
- (2) 麻しん風しん予防接種実施状況調査(6月)
- (3) 第2回麻しん対策会議の開催(7月11日)
→「予防接種の促進」のための提言
- (4) 麻しん排除に向けたシンポジウムの開催(8月29日)
→「第3期・第4期予防接種の取り組み」への意識啓発

(1) 麻しん排除に向けた対策

- ① 予防接種
 - ・個別通知による確実な接種勧奨
 - ・1歳6か月児健康診査、就学時健康診断及び学校での定期健康診断時における確認調査
- ② 全数把握サーベイランス
 - ・医師の協力(患者に調査の説明と同意)のもと
麻しん患者の積極的疫学調査の実施
- ③ 学校等における発生時の対応
 - ・一人でたらずぐ対応! (関係機関への連絡)

(2) 麻しん風しん予防接種実施状況調査結果

- 市町村の接種方法(市町村数:44)

	個別接種	集団接種	集団接種場所
第2期	44	1	保健センター
第3期	44	30	各中学校
第4期	44	3	保健センター

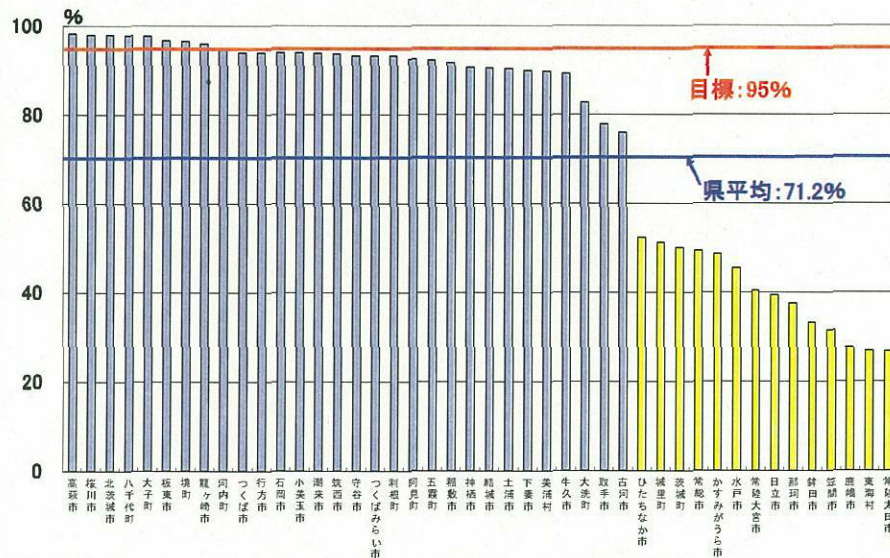
- 対象者に対する通知方法

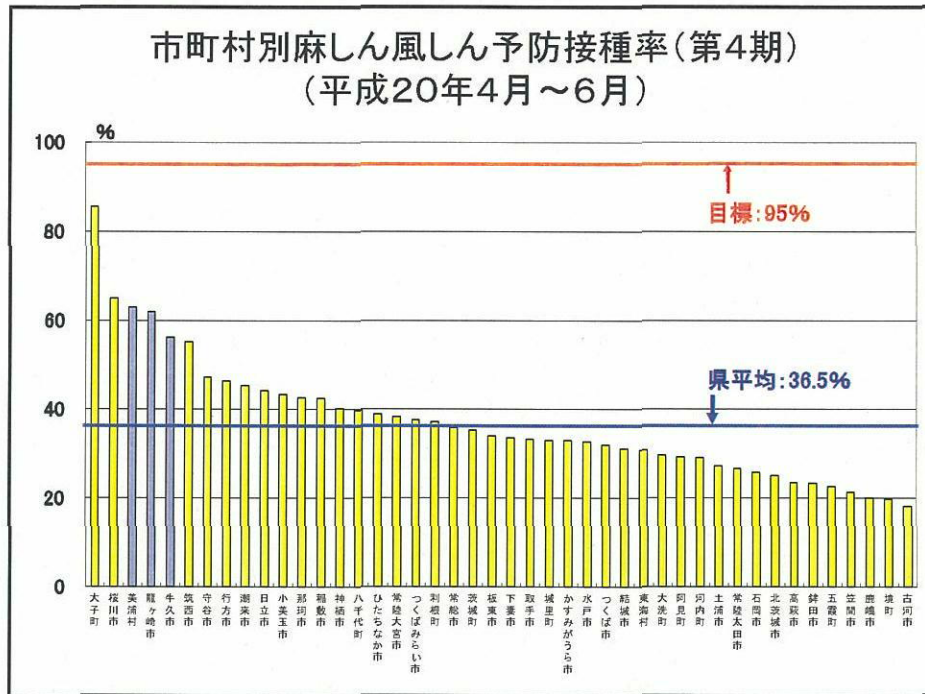
全市町村で3～4月に個別通知を実施

- 市町村における接種率(第2期:4月～5月、第3・4期:4月～6月)

	対象者(a)	接種者(b)	接種率(b/a)	最大	最小
第2期	27,110	6,672	24.6%	82.2%	3.3%
第3期	28,750	20,473	71.2%	98.2%	26.7%
第4期	30,301	11,056	36.5%	85.5%	18.2%

市町村別麻しん風しん予防接種率(第3期)
(平成20年4月～6月)





学校における接種率(4月～5月)

中学校	学校数	在籍者数 (a)	接種者数 (b)	接種率 (b/a)	最大	最小
公立	249	26,682	15,354	57.5%	100%	12.9%
私立	11	1,555	709	45.6%	92.9%	1.6%

高校	学校数	在籍者数 (a)	接種者数 (b)	接種率 (b/a)	最大	最小
公立	121	20,355	5,451	26.8%	71.2%	3.2%
私立	24	8,529	2,263	26.5%	73.1%	3.1%

考察

- ・ 第2期の予防接種率は県全体で24.6%であった。調査期間が4～5月の2ヶ月間ではあるが、麻しんの流行時期(春先から初夏)を考えると低いと思われる。
- ・ 第3期は、30市町村が学校での集団接種を併用している。集団接種を併用している市町村と個別接種のみの市町村では、接種率に明らかな差が見られる。
- ・ 第4期は、3市町村が保健センターでの集団接種を併用している。集団接種を併用している市町村は接種率が高い。
- ・ 接種率の市町村格差・学校格差が大きい。

(3)「予防接種の促進」のための提言

- ・ 市町村においては、現時点で、第1期～第4期の未接種者を把握し、個別のはがきや電話による丁寧な接種勧奨を行う。
- ・ 学校においては、現時点で、未接種者を把握し、個別に接種勧奨を行う。
- ・ 第2期予防接種対象者については、必ず就学时健康診断時に確認調査を行い、未接種者に対して接種勧奨を行う。
- ・ 第3期予防接種対象者については、各中学校等における集団接種の実施を検討する。
- ・ 第4期予防接種対象者についても、各市町村保健センター等を会場とした集団接種の実施を検討する。

(4) 麻しん排除に向けたシンポジウムの開催

- 目的
 - 「**第3期・第4期予防接種の取り組み**」への意識啓発
- 対象者
 - 市町村職員、保健所職員、教育関係者(養護教諭等) 約250人
- 内容
 - 基調講演
「東京都教育委員会における麻しん流行への対応」
東京都教育庁都立学校教育推進課長 寺西 新氏
 - パネルディスカッション
 - ・龍ヶ崎市におけるMR予防接種の取り組み(医師会医師)
 - ・桜川市における第3期予防接種の取り組み(市町村保健師)
 - ・高等学校における予防接種の取り組み(養護教諭)




はしか予防 追加接種率に開き

9/15 茨城県 県内市町村 18歳は4.7倍

【本紙記者が取材した】茨城県内市町村の麻疹追加接種率に開きが生じている。県内市町村の18歳以上の追加接種率は、9月15日現在、最も高いのは、龍ヶ崎市で4.7倍に達している。最も低いのは、桜川市で0.1倍にとどまっている。県内市町村の追加接種率は、9月15日現在、最も高いのは、龍ヶ崎市で4.7倍に達している。最も低いのは、桜川市で0.1倍にとどまっている。県内市町村の追加接種率は、9月15日現在、最も高いのは、龍ヶ崎市で4.7倍に達している。最も低いのは、桜川市で0.1倍にとどまっている。